

ESG取組概要「環境編」

2025年1月

1. サステナビリティ関連外部評価
2. 環境関連活動
 - マテリアリティ
 - 地球温暖化への取り組み
 - 循環型社会への貢献
 - 地球環境に配慮した製品開発

1. サステナビリティ関連外部評価
2. 環境関連活動
 - マテリアリティ
 - 地球温暖化への取り組み
 - 循環型社会への貢献
 - 地球環境に配慮した製品開発

MSCI ESG RATINGS

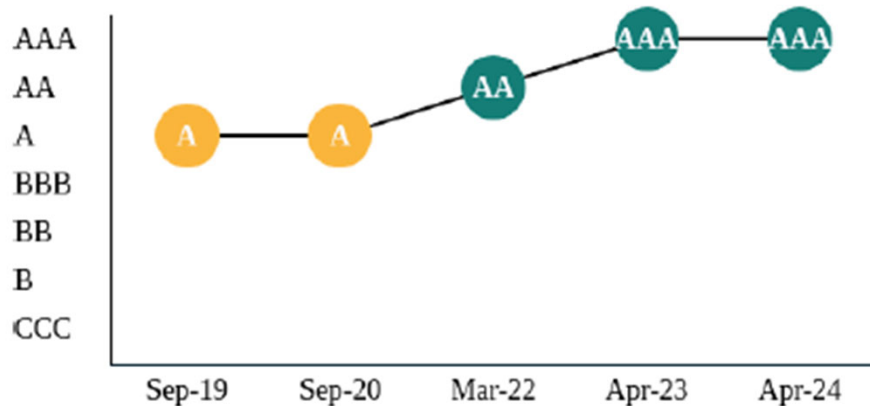


CCC	B	BB	BBB	A	AA	AAA
-----	---	----	-----	---	----	------------

RATING ACTION DATE: April 25, 2024
 LAST REPORT UPDATE: April 30, 2024

NIFCO INC. (7988) Auto Components | JP

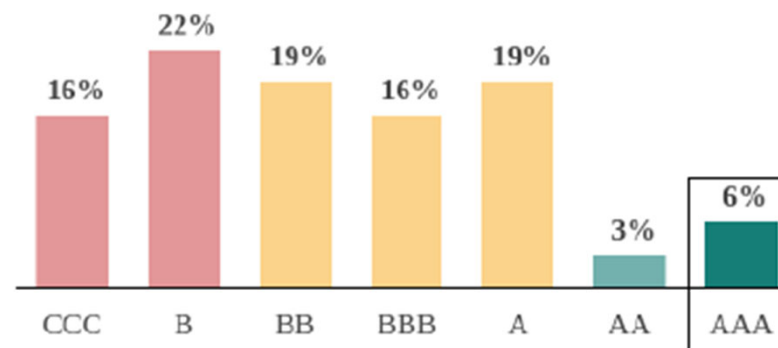
ESG Rating history



ESG Rating history shows five most recent rating actions

ESG Rating distribution

Universe: MSCI ACWI Index constituents, Auto Components, n=32



1. サステナビリティ関連外部評価
2. 環境関連活動
 - マテリアリティ
 - 地球温暖化への取り組み
 - 循環型社会への貢献
 - 地球環境に配慮した製品開発

環境マテリアリティ

- 2021年度 重要事項である環境のマテリアリティを初回設定
- 統合報告書『ニフコレポート』（現サステナビリティWeb）にて公開

	マテリアリティ	サブ課題	中長期目標	関連するSDGs
定性領域 E (環境)	気候変動への対応	<u>事業全体におけるCO2排出量の削減</u>	1. CO2排出量の削減 プロセス目標 a. 省エネ推進 b. 再生可能エネルギー導入	 
		<u>CO2排出量削減に貢献する製品の研究開発、製造、販売</u>	環境性能を向上させる製品の開発	  
	廃棄物ゼロ（サーキュラーエコノミー）への取り組み推進	<u>廃棄物ゼロ（サーキュラーエコノミー）への取り組み推進</u>	廃棄物量削減	

ダブル・マテリアリティによる分析を採用

1. サステナビリティ関連外部評価
2. 環境関連活動
 - マテリアリティ
 - 地球温暖化への取り組み
 - 循環型社会への貢献
 - 地球環境に配慮した製品開発

基本的な考え方

ニフコは**事業活動によって生じるCO2排出量の低減に向けた地道な活動とイノベーションを通して、環境配慮型製品を社会に提供していくこと**が、ニフコが目指す持続可能な社会への貢献であり、成長戦略と考えています。

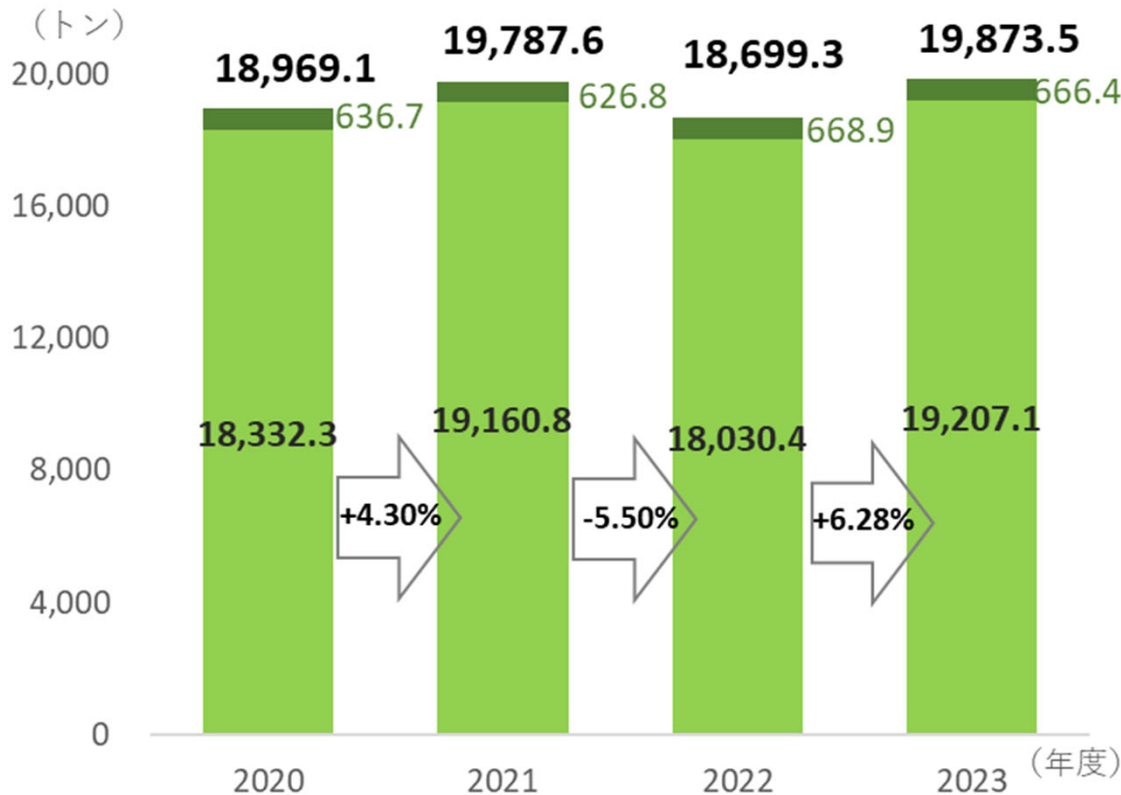
ニフコが目指すこと

- エネルギー使用の合理化（ロス・ムダ削減）
- 再生可能エネルギー等の利用促進
- 地球環境に配慮した新製品・生産技術開発

2023年度CO2排出量 (Scope1,2)

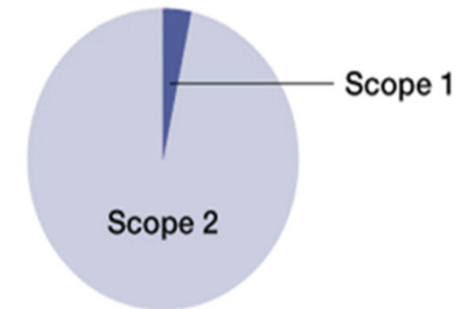
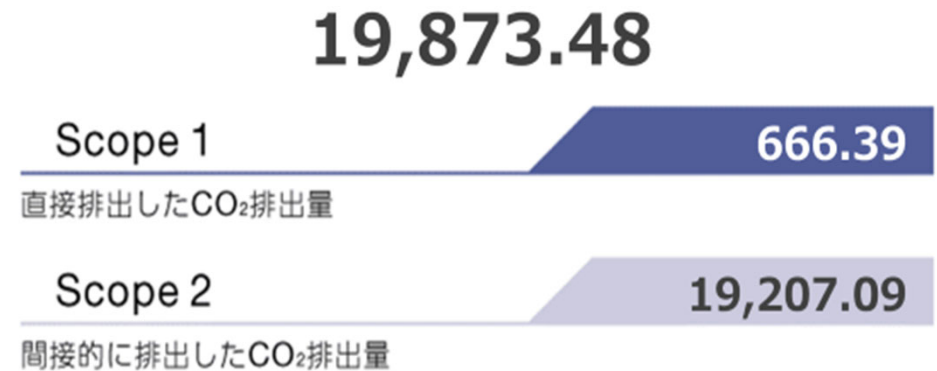
- 2050年カーボンニュートラル達成を宣言
- CO2排出量のうちScope2 (電力) が大半を占めるため、再エネ等の導入率UPや、今後電力プランの変更等を検討

■ Scope 1, Scope 2 推移グラフ (国内単体・国内グループ)



■ 国内単体および国内グループ会社CO2排出量 (2023年度)

単位: トン



- 太陽光発電機の導入を促進し、再生可能なエネルギーを創出
 - 2024年度には本社にも導入し、本格始動
 - 全体消費電力のうち1.4%を占める
- FIT非化石証書によるオフセット【2030年度を目途にフィジカル電源に移行】
 - 2023年度はCO2排出量 Scope2 19,873.48トンのうち402トンを実質的に削減

**再生可能エネルギー発電量
(2023年度)**

628.55 MWh

各拠点の発電量（多い順）

ニフコ熊本 408.90MWh

ニフコ北関東 89.08MWh

相模原工場 71.51MWh

名古屋工場 49.50MWh

NTEC 9.56MWh

エネルギー使用の合理化（ロス・ムダ削減）

- 「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」に基づく「事業者クラス分け評価制度」において、9年連続で省エネ優良事業者（Sクラス）を取得
- 原単位は、エネルギー使用量を工場やオフィス等で決められた数値にて除算

■ 省エネ法：エネルギー消費原単位

目標 1%低減（前年度比）

■ エネルギー消費原単位推移（国内単体）



※2016年度を基準年度とする指標を使用

Scope3 サプライチェーンへの取り組み

- サステナビリティ調達方針・調達ガイドラインをサプライヤー各社へ発信、多くの賛同
- Scope3削減の取組みへの協働に向けて基盤作りを実施

■ サステナビリティ調達方針 及び サステナビリティ調達ガイドライン

2023年 4月 1日制定
株式会社ニフコ

サステナビリティ調達方針

1. サステナビリティ調達の推進について

ニフコは、『小さな気づきと技術をつなぎ、心地よい生活と持続可能な社会を創造する』ことをパーパスとして定めております。このパーパスのもとESG（環境・社会・ガバナンス）を重視しながら、企業価値の向上とサステナビリティ調達の推進に取り組んでまいります。

2. サステナビリティ調達方針

ニフコは、サステナビリティへの取り組みの一環として、持続可能なサプライチェーンの構築を図るために「サステナビリティ調達方針」を制定し、関連する全ての法令やルールを遵守し、公平・公正な調達活動を行います。

【重点項目】

1) 法令の遵守

- ・当社の事業活動において、下請代金支払遅延等防止法、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律、不正競争防止法、不当表示防止法、その他一切の法令、および国外で事業活動を行う場合は、現地の法令を遵守します。

2) 社会規範の遵守

- ・当社は、高い倫理観に基づく調達活動推進のために、原材料等の調達先選定を公平・公正に行います。
- ・当社は、違法または不当に利益（金銭、物品、接待など）の提供を受領、要求、約束を行いません。
- ・当社は、個人および企業間の活動で知り得た秘密情報は、その一切を違法に第三者に対して譲渡・開示・漏洩をしません。

3) 人権の尊重

- ・当社は、「ニフコグループ人権方針」を定め、人権尊重を基礎とした経営や事業活動を行うことで持続可能な社会の発展に貢献します。

4) 労働安全衛生の維持・向上

- ・当社は、労働安全衛生の維持・向上に貢献します。

5) 環境への配慮

- ・当社は、「ニフコグループ環境方針」に基づき、事業活動および製品を含むサプライチェーン全体で、生物多様性ならびに地球環境保全に努めます。

6) サプライヤーとの信頼関係の構築

- ・当社は、サプライヤーとの建設的な対話を行い、サプライヤー全体の企業価値向上を図ります。
- ・当社は、サプライヤーの生産現場における環境への配慮や労働者の管理など、多様な社会的な要請にも取り組みます。

3. サプライヤーのサステナビリティ調達ガイドライン

ニフコは、サステナビリティへの取り組みをサプライチェーン全体で進め、サプライヤーの企業価値向上も目指します。そのために「サプライヤーのサステナビリティ調達ガイドライン」を制定し、サプライヤーへ本調達ガイドラインのご理解と遵守を求めます。

情報提供の依頼の際は、ご対応いただきますようお願い致します。

「サプライヤーのサステナビリティ調達ガイドライン」

- 1) 基本的人権を尊重すること。
- 2) 児童労働、強制労働を禁止すること。
- 3) 従業員を不当に差別せず、雇用の安定に努めること。
- 4) 労働基準法や労働安全衛生法、その他労働法令を遵守すること。
- 5) 各国・地域の法令にて規制された環境負荷物質の使用禁止、環境負荷に配慮した原材料等の使用および資源・エネルギーの効率的利用と、排出物の削減に努めること。
- 6) 廃棄物処理法を遵守し、産業廃棄物は適切に処理すること。
- 7) 下請法、独占禁止法、不正競争防止法、公正競争規約などの事業活動に適用される法令を遵守すること。
- 8) 違法または不当に利益（金銭、物品、接待など）の提供を受領、要求、約束しないこと。
- 9) 反社会的な勢力・団体との関係を持たないこと。
- 10) 秘密情報の保護と管理の体制を整え、知り得た秘密情報の不当な譲渡・開示・漏洩をしないこと。

Scope3 サプライチェーンへの取り組み

➤ 自主的な環境課題への取り組みを促進するため、学習ツールを試験的に無償提供

■ 短い動画で環境問題を学べる学習ツール

Pivotta
サステナ



※動画例



■ アカウントの無償提供

当社



サプライヤーの皆様



ID : aaa@sample.com
PASS : password1111



ID : bbb@sample.com
PASS : password2222



ID : ccc@sample.com
PASS : password3333



【期待する効果】



環境知識の底上げ



環境課題への意見集約



サプライチェーン全体での環境意識の醸成

1. サステナビリティ関連外部評価
2. 環境関連活動
 - マテリアリティ
 - 地球温暖化への取り組み
 - **循環型社会への貢献**
 - 地球環境に配慮した製品開発

基本的な考え方

ニフコは、資源を有効的に繰り返し使う循環型社会の実現に貢献するために、Reduce（リデュース）、Reuse（リユース）、Recycle（リサイクル）の3Rを実行します。

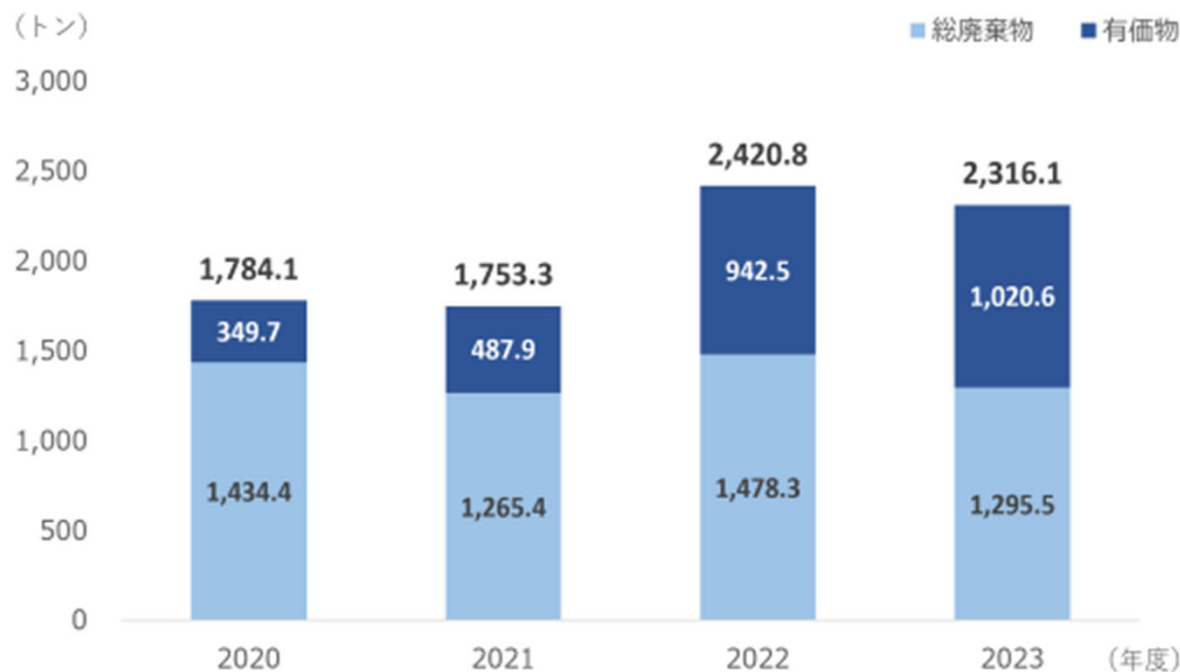
ニフコが目指すこと

- プラスチック廃棄物の発生抑制
- プラスチック廃棄物の循環活用
- 資源の循環的な利用方法の確立

資源保護および廃棄物の有効利用

- 再利用しやすい有価物の比率を増加させていく方向性
- 開発、設計段階：環境に配慮した製品開発や顧客への提案を実施
- 製造段階：製造時に発生するプラスチック廃棄物を削減
- 外部連携：経済産業省、環境省が担う、サーキュラーエコノミーに関する産官学のパートナーシップ加盟、SusPla（Sustainable Plastics Initiative）への加盟
自動車部品工業会との連携により業界でサーキュラーエコノミーの促進

■総排出量※1の推移



■リサイクル材を使用した アパレルウェア向け機能部品



コードロック/コードフック

集計範囲：国内単体および国内グループ会社（ISO14001認証取得拠点）

※1 総排出量 = 総廃棄物 + 有価物

- 欧州が先行する規制の動き：**自動車の再生プラスチック最低含有率の義務化等が盛り込まれたELV（廃自動車）規則案**が提案され、日本の自動車産業への影響が懸念。

自動車設計の循環性要件及び廃自動車管理に関する規則（案）（欧州委員会）

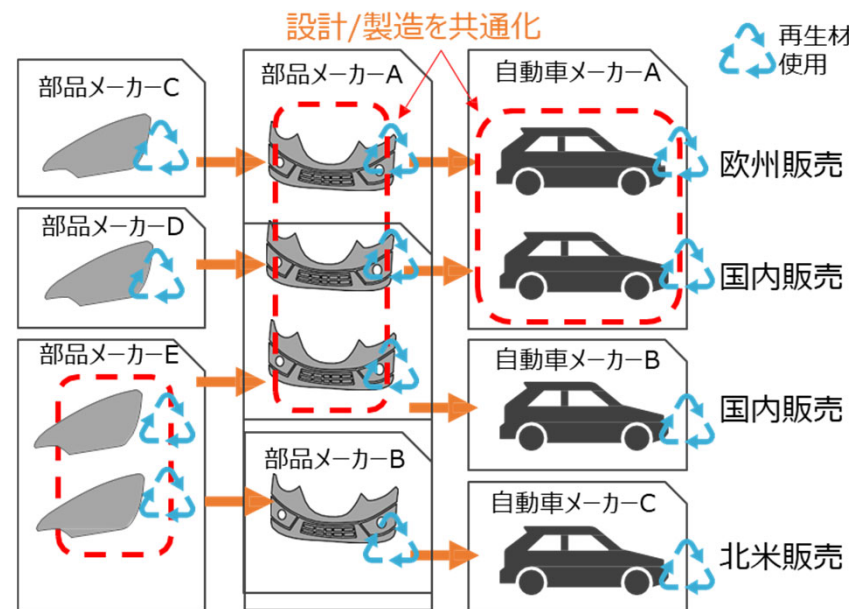
- 2023年7月、欧州委員会は、現行のELV指令（End-of-Life Vehicle指令、廃自動車指令）等を改正し、新たな**ELV規則案**を公表。

- 施行6年後から（欧州委員会の事前検討では2031年を想定）新車製造に**プラスチック再生材25%**（うち1/4はELV由来）の**適用義務化**。

- さらに、鉄鋼、次にアルミニウム、レアアース等へリサイクル義務対象が拡大される予定。

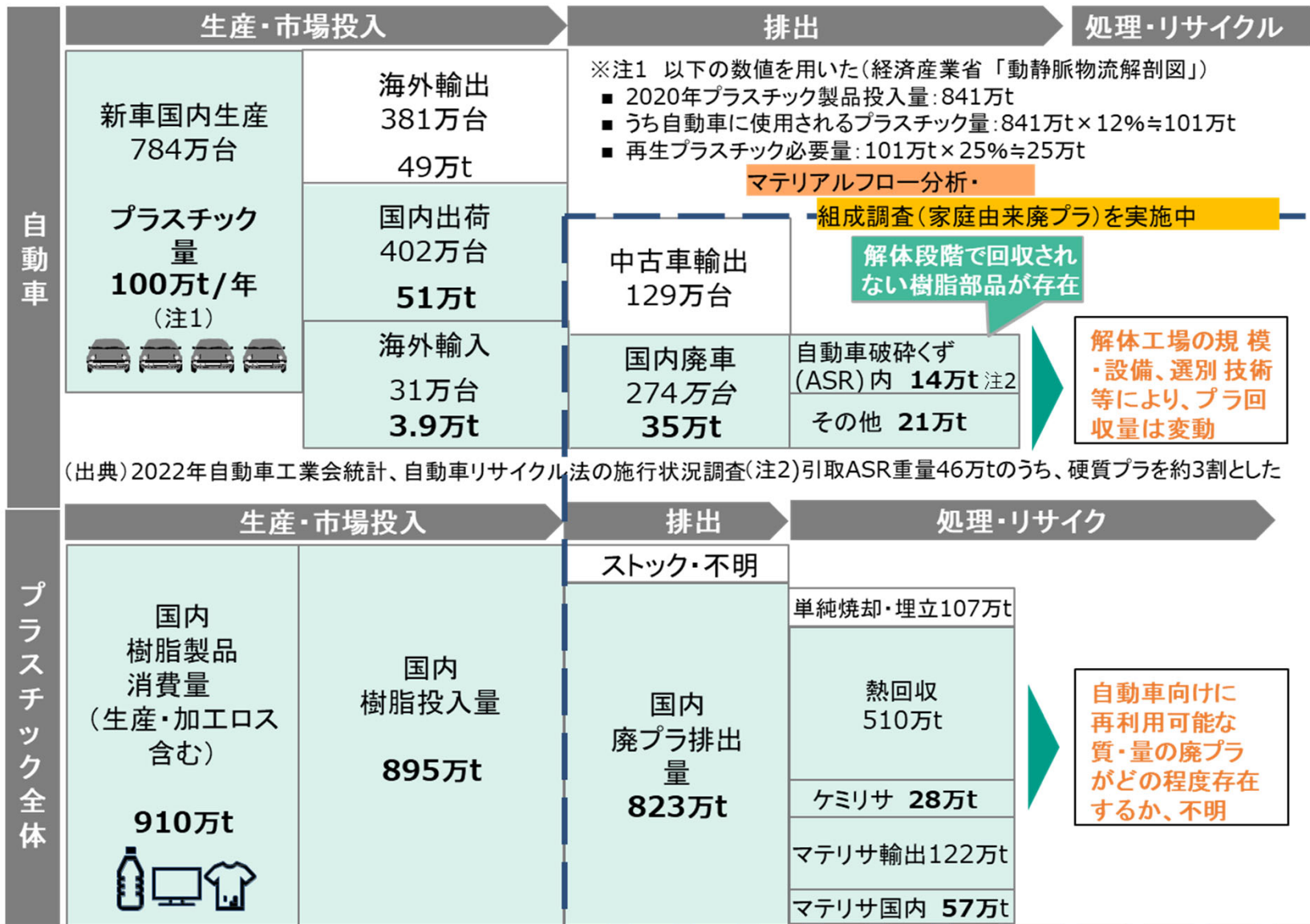
【日本へのインパクト】

設計/製造共通化や一括購買等により、再生材使用は**欧州向け以外の自動車も含めてサプライチェーン全体での対応が不可避**



（出典）環境省 自動車向け再生プラスチック市場構築のための産官学コンソーシアム（第1回）資料2より再編集

国内プラスチックのマテリアルフローイメージ（概算:参考）



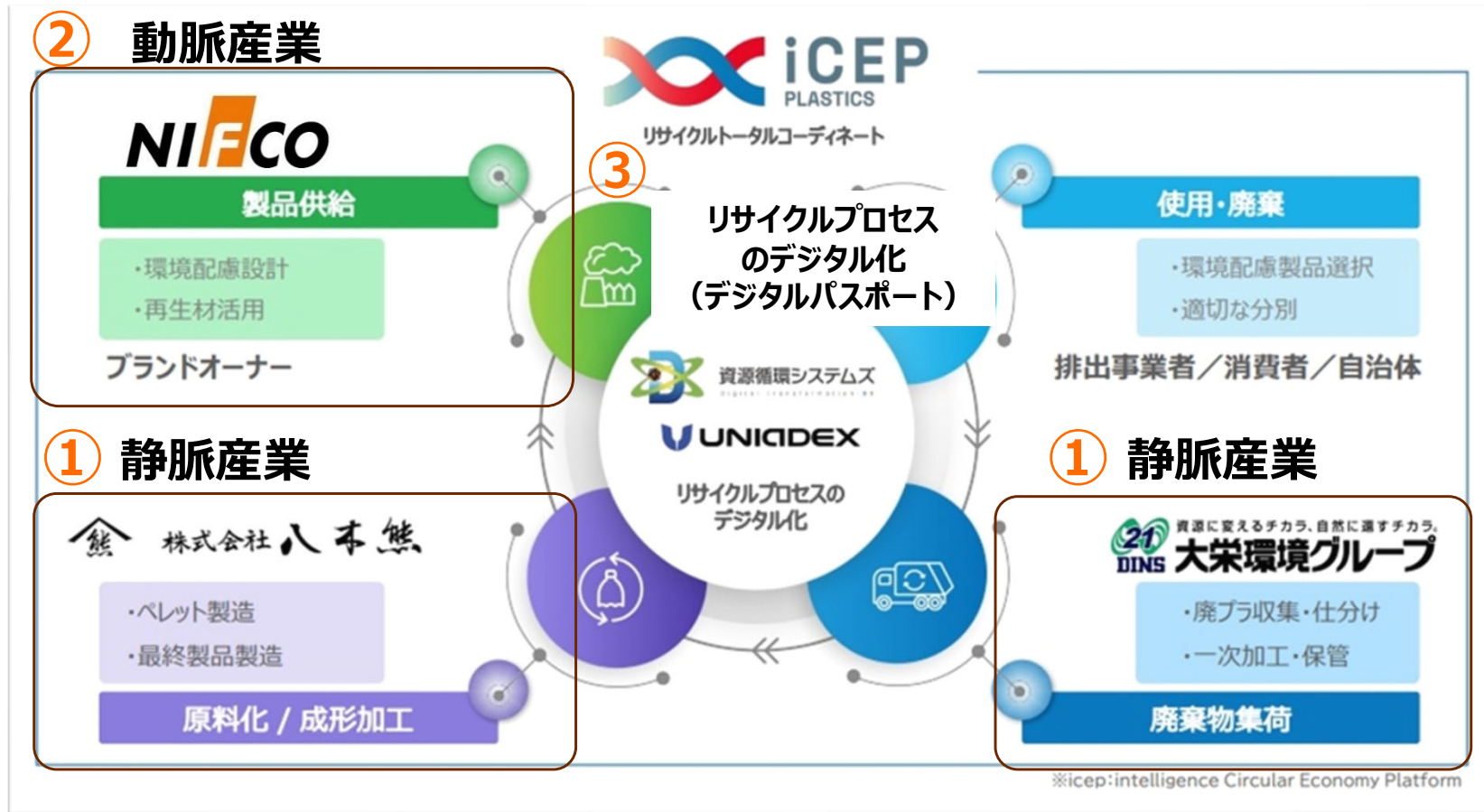
(参考)
ELV規則案をベースにした場合に必要な再生プラスチック量 **約25万t**(注1)
うち1/4はELV由来(Car to Car) = **約6.3万t**

(参考)
ELV規則案をベースにした場合に必要な再生プラスチック量 **着目**
うちELV以外(X to Car) **約18.7万t**

(出典) 2022年自動車工業会統計、自動車リサイクル法の施行状況調査(注2)引取ASR重量46万tのうち、硬質プラを約3割とした

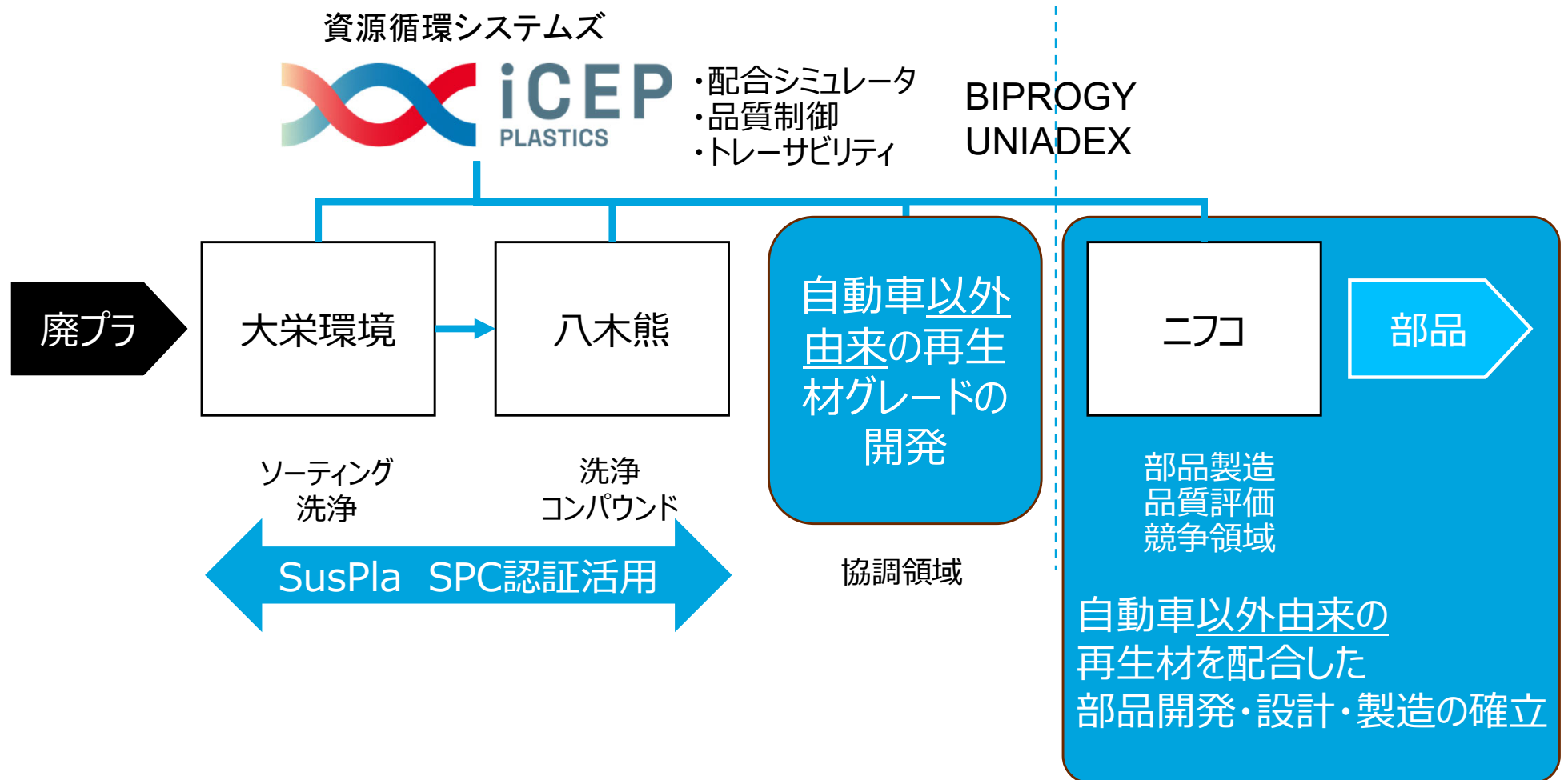
(出典) 2022年プラスチックマテリアルフロー図 プラスチック循環利用協会

- 今後不足が懸念されるプラ廃棄物確保のため、動静脈連携による活動を早期に推進
- 動静脈企業連携の確立 【2024年10月より座組に参画】



出典：iCEP PLASTICS HPより引用し一部追加 <https://icep-plastics.rcs-dx.jp/case/71/>
 iCEP PLASTICS®は資源循環システムズ社の登録商標

- 目標：自動車由来以外のプラスチック廃棄物を自動車部品用途の再生プラスチックとして改質技術開発及び活用【2025年4月～開始予定】



1. サステナビリティ関連外部評価
2. 環境関連活動
 - マテリアリティ
 - 地球温暖化への取り組み
 - 循環型社会への貢献
 - **地球環境に配慮した製品開発**

地球環境に配慮した製品開発（1）ABSアクチュエーターブラケット樹脂化

2022年07月01日プレスリリース済

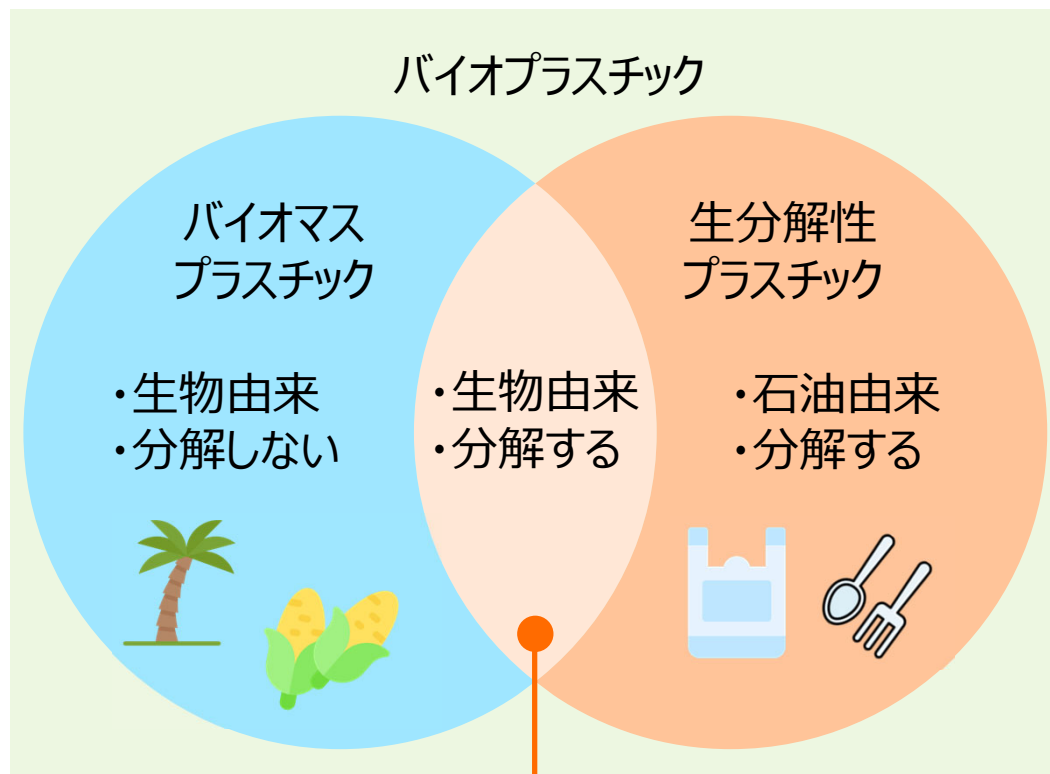
- 車体軽量化によって燃費向上とCO2排出量削減に貢献
- ABSアクチュエーターの金属ブラケットを、日本で初めて樹脂化
 - 従来の金属製を樹脂化したことにより、**質量を6割削減**
 - 樹脂インジェクションの形状自由度を活かし、機能を統廃合したことにより、部品点数を**4割削減**
 - ボルトによる組立て点数削減により、自動車組立て作業の効率化に貢献



▲ TOYOTA bZ4x



- ◆ バイオプラスチックのうち、生物由来で分解する「生分解性プラスチックファスナー」を開発
地面に落ちた際にも水とCO2に分解され自然に還るため環境負荷が低い
- ◆ オフロードバギー『LEXUS ROV』は、使用するパーツを厳選、環境負荷を減らすため、
マテリアルリサイクルなど様々なチャレンジを実施しており、ニフコも実証実験に参加



水とCO2に分解され自然に還る
『生分解性プラスチックファスナー』

- 生分解性プラスチックを使用したファスナーが、2025年大阪・関西万博の株式会社竹中工務店「森になる建築」に登場
- 本製品は、生産時のCO2排出量削減および、使用後は水と二酸化炭素に分解され、自然に還るため、環境負荷低減に貢献



▲ 「森になる建築」の完成イメージ（竹中工務店提供）
※現時点の想定であり、今後の技術開発等により変更する可能性があります。

▼ 生分解性プラスチックファスナー
（ブラッシュクリップ）





- シモンズでは、環境省から処理困難物に指定されているポケットコイルマットレスの100%再資源化に取り組み
- 主力商品であるマットレスやフレームの原材料として、リサイクル繊維・ペットボトル再生繊維等を積極的に採用



■再生ポリエステル100%素材の張地



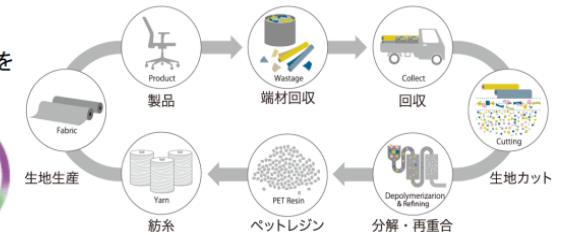
繊維再生/RENU®100%
ペットボトル再生76%



●繊維再生 繊維から繊維へリサイクル

【ケミカルリサイクル ポリエステル系-RENU®100】は未使用繊維や端材、回収したアパレルなどをもう一度新しいポリエステルに生まれ変わらせるシステムです。
 ・大量廃棄される繊維をなるべく減らしたい
 ・環境負荷を軽減させたい
 ・未来のファッション産業や繊維産業を変えることを目的としています。

* ケミカルリサイクルポリエステルとは、繊維から繊維へ再生するサーキュラーエコノミーによって作られています。

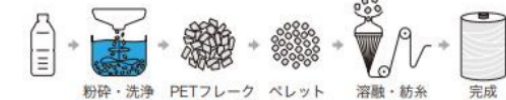


* サーキュラーエコノミーとは
サーキュラーエコノミー(循環型経済または循環経済)は、大量生産・大量消費・大量廃棄を前提とし気候危機や生物多様性の喪失など様々な負の外部性をもたらす「Take(資源を採掘して)」「Make(作って)」「Waste(捨てる)」というニア(直線)型の経済システムに代わる新たなシステム

●ペットボトル再生

回収されたペットボトルを原料に作られています。使い捨てペットボトルの国内供給量は年間596千トン*、販売本数は242億本*にも及び廃ペットボトルの有効利用が求められています。廃棄物が減るだけでなく、廃棄物処理に必要なエネルギーも削減することができます。リサイクルせずにバージンポリエステルを生産する場合と比較すると、約41%*のCO2排出量を削減します。

ペットボトルをリサイクルして糸を作る場合



ペットボトルをリサイクルせず糸を作る場合



1. サステナビリティ関連外部評価
2. 環境関連活動
 - マテリアリティ
 - 地球温暖化への取り組み
 - 循環型社会への貢献
 - 地球環境に配慮した製品開発